

【単元目標】A(2) 1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法について、10のまとまりに着目して計算の仕方を考え、計算することができる。

【単元がつながる内容】

- 1年 ひきざん
- 1年 ずをつかってかんがえよう
- 2年 2けたのたし算

【単元に関わる既習内容】

- 1年 いくつといくつ
- あわせるといくつ
- ふえるといくつ
- 10よりおおきいかず

【児童の実態】

- 数え足しやブロックを用いて考えるなど、自分の力で答えを導き出そうと、意欲的に活動することができる。
- 10より大きい数を、素早く10といくつに分けるなど、10のまとまりを正しく捉えることができる。
- 黒板やモニターを指し示しながら、自分の考えを伝えることができる児童が多い。
- 問題をじっくり考えずに、答えを出そうとすることがある。
- 多くの子が数をまとまりで捉えているが、一部の児童が数え足しをしている。

理解を深め、習熟する授業

⑤⑥たし算カード

1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算が確実にできる。

【知】

計算カードを使って繰り返し練習すると、素早く計算することができる。

⑦たしかめ問題【活用する】

1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算ができ、それをを用いて問題を解決することができる。【知】

【単元後の児童の意識】

- ・数が大きくなっても、「10より大きい数」の学習と同じように「10のまとまり」とあといくつあるか考えれば正確に答えを求めることができる。
- ・「10のまとまり」を作るときは、どちらの数を分けてもできるが、小さい数を分けて考えた方が簡単に計算することができる。

和が11以上になるたしざんの仕方を考える授業

①和が11以上になるたし算【本時】

1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法について、ブロック操作や図に表すことを通して、10のまとまりを作って計算する方法を考えることができる。【考】

10のまとまりを作って考えれば、簡単に計算することができる。

②和が11以上になるたし算

被加数が8の場合も、9の場合と同じように考えれば計算することができる。【考】

たす数を分けて10のまとまりを作れば、正しく計算することができる。

③被加数分解のたし算

1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法の計算の仕方を理解している。【知】

たされる数が小さいときは、たされる数を分けて10のまとまりを作った方が楽に計算することができる。

④和が11以上になるたし算

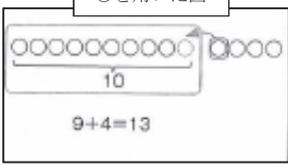
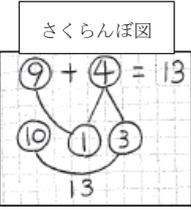
1位数と1位数をたして、和が11以上になる加法を加数分解や被加数分解で計算することができる。【知】

たす数とたされる数の大きさが近くても、10のまとまりを作れば計算することができる。

◆本時のねらい

1位数と1位数を足して和が11以上になる加法について、ブロック操作や図に表すことを通して、10のまとまりを作って計算する方法を考えることができる。

◆本時の展開(1/7)

	学習活動と児童の姿	◇指導上の工夫 ○研究に関わって
つかむ	<p>答えが「10」になるたし算を確認する。 「9+□」「8+□」「7+□」「6+□」・・・ 5+8や9+2を提示し10より大きくなるか確かめる。</p> <p>1 問題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>9にん あそんで いました。4にん きました。 みんなで なんにんに なりましたか。</p> </div> <p>【式を立てる】 $9 + 4$</p> <p>・10より大きくなりそう。 ・前と違うな。</p>	<p>◇10のまとまりを意識できるように、10になるたし算を確かめる。 ◇10より大きい計算になることを想起できるように、10になるたし算と並べて提示する。 ◇たし算を想起できるように、「きました」「みんなで」という言葉に着目させる。</p> <p>○研究内容1:「9+4」は10より大きい数になることを「9+1」と並べて板書して着目させ、課題化につなげる。</p>
考える	<p>2 課題づくり</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>けいさんのしかたをかんがえよう。</p> </div> <p>3 個人追究</p> <p>①数え足しで計算する。 ②ブロックなどの具体物を動かして考える。 ③図にかいて考える。(○を用いた図) ④念頭操作し、イメージを言葉にまとめる。 ⑤式で考える。(さくらんぼ図)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="text-align: center;"> <p>ブロック操作</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>○を用いた図</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>さくらんぼ図</p>  </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>9と1を合わせて10を作りたいので、4を3と1に分けます。 次に9と1を合わせて10です。 最後に10と3をたすと、答えは13です。</p> </div>	<p>◇数え足している児童には、「10」と数えたことに着目させて他の方法がないか支援し、既習学習を活かした様々な方法で計算させる。</p> <p>○研究内容2:念頭操作する児童が多いことが予想されるので、イメージする手がかりとなるようこれまで用いた考え方「ブロック」「○図」「さくらんぼ図」を提示する。</p> <p>○発表の手掛かりになる話型を示す。 「私は○○を使って考えました。」 「はじめに～。次に～。最後に～。」</p> <p>○理解を深められるよう、説明と動きの両方を同時に行うように仕組む。</p>
深める	<p>4 全体交流</p> <p>1人が言葉で説明し、もう1人が黒板やモニターを指し示したりブロック操作をしたりする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>深めの発問:「なぜ、10のまとまりを作るといいの?」</p> </div> <p>・10といくつだったら、習ったことで考えることができるから。</p>	<p>○研究内容3:理解度を把握するために、児童の説明を動画で撮る。</p>
まとめる	<p>5 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>10のまとまりをつくとけいさんできる。</p> </div> <p>6 評価問題</p> <p>9+2を計算して、ペアで交流する。(互いに動画を撮る)</p> <p>7 練習</p> <p>取り組む問題を自己選択する。</p> <p>① 先生問題に挑戦する。「9+3」「9+5」「9+6」・・・ ② キュビナの基本問題に挑戦する。</p>	<p>○考え方の共通点を見付けさせることで、10のまとまりを作ると計算できることを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>評価規準【思考・判断・表現】 10のまとまりに着目して、計算の仕方を考えることができる。</p> </div> <p>○研究内容3:それぞれの実態に合わせて児童が自己選択できるように、問題を用意する。</p>